

Ⅲ 活動記録

1 展覧会

- ・出品リストについては、他館所蔵家作品のみ詳細を掲載した。
- ・所蔵先、及び講師の所属は開催当時のもの。

特別展

「清方と金鈴社の画家たち ～吉川霊華・結城素明・平福百穂・松岡映丘～」

大正期の清方の歩みは、浮世絵の伝統を継ぐ美人画家として日本画壇での地歩を固めつつ、独自の芸術の創造を模索する道のりであった。その頃、清方が重視していた活動の場に、官設の公募展である文展や帝展に次いで研究団体「金鈴社」があった。清方は、当時画壇の中堅にあった金鈴社同人の吉川霊華、結城素明、平福百穂、松岡映丘との交流を通して次第に風景画に傾倒し、風景の詩的世界を美人画に取り入れる新たな画風の確立へと歩みを進めていった。

本特別展では、清方の大正期を振り返り、金鈴社とのかかわりを紹介した。

会期

平成 31 年 4 月 18 日(木)～

令和元年 5 月 22 日(水) (開館日数:31 日)

総入館者数 2,280 人(一日平均:74人)



関連事業

「市民講座」当館学芸員等による美術館や清方に関する講座。

【開催期間】4月23日(火)～27日(土)

「改元記念 展示解説」【日時】5月1日(水)～6日(月) 13:30～

日本画ワークショップ「日本画材を使って、日本画を描こう！」

【日時】5月18日(土) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】 前期:平成31年4月6日(土)～令和元年10月5日(土)

関連記事

「清方と金鈴社の画家たち 一吉川霊華・結城素明・平福百穂・松岡映丘一」(ARTAgenda)

「清方と金鈴社の画家たち 吉川霊華・結城素明・平福百穂・松岡映丘」(毎日新聞 4月20日)

「清方と金鈴社の画家たち 吉川霊華、結城素明、平福百穂、松岡映丘」

(子供とお出かけ情報サイトいこーよ) 他10件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
七夕	大正4年 (1915)	絹本着色・軸	123.0×42.0	BEN HAUPTMAN 氏蔵
絵双紙屋の店	大正8年 (1919)	絹本着色・軸	143.0×51.0	弥生美術館蔵
濡髪	昭和10年頃 (1935)	絹本着色・額	120.5×35.5	同上
吉川霊華作 観自在菩薩	大正7年 (1918)	絹本着色・軸	139.0×51.0	個人蔵
平福百穂作 夏山雨後	昭初期	絹本着色・軸		個人蔵
松岡映丘作 月	大正6年 (1917)	絹本墨画・軸	38.0×52.5	練馬区立美術館蔵
松岡映丘・ 結城素明作 聯珠画卷	大正15年 (1926)	絹本着色・画卷	(各) 24.5×57.5 (六面のうち)	東京藝術大学 大学美術館蔵

【所蔵品】

「早春」「夕立雲」「笠の曲(娘道成寺)」「朝涼」「春の立場茶屋(金沢春景)」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「山百合」「風景(池)」「金沢絵日記(14、15 図)」「夏の生活(15、16 図)」「游心庵漫筆(14、15 図)」「芍薬」「手賀沼(当館委託)

下絵 「筆捨松と一立齋広重」「金沢游心庵」「曲亭馬琴」「日高川 道成寺」
「黒髪」(小下絵)

スケッチ 「朝涼」「二子山」「小田原 天神山」「金沢」
「榛名丸より松岡映丘と平福百穂」

『文藝倶楽部』口絵 「雛壇の下」「紅さす女」「湯治場」

『講談雑誌』口絵 「菖蒲湯」「浮いて鴉の」

『清方美人畫譜』 「幕間」「五月雨」「午後の海」「春雨の寮」「白壁」「青き星」「初雪」
「湖 のほとり」「濱町河岸の秋」「島田くづし」

田口掬汀・著口絵 『伯爵夫人(前編)』『女夫波(後編)』『情の人』(校合摺・完成品)
『三昼夜』(下絵・完成品)『黒風(前編)』(下絵)『黒風(後編)』

書籍 鏑木清方著『新浮世絵講義』 結城素明著『画法一斑』
松岡映丘著『色彩に関する講話』「平瀨湾近景」(『甦る幕末』)
吉川霊著『歴史風俗画講義』

歌川広重・画 『草筆画譜』『東海道風景図会』

長谷川雪旦・画 『江戸名所図会』

特別展

「三遊亭圓朝生誕 180 年記念 清方と江戸の粋 ～三遊亭圓朝とのかかわり～」

13 歳の清方が挿絵画家への道を選んだ決断には、『やまと新聞』の経営者だった父の條野採菊と、創作落語で人気を博した落語家の三遊亭圓朝による後押しがあった。清方の美意識や画風の形成には、江戸の香りが色濃く残る明治の東京の風俗が強く影響している。また、三遊亭圓朝の、創作への真摯な姿勢を目の当たりにしたことにも大きな影響を受けた。

本特別展では、三遊亭圓朝の生誕 180 年を記念し、明治時代の寄席や芝居にまつわる資料とともに清方と落語家三遊亭圓朝のかかわりを紹介した。

会期

令和元年 5 月 25 日(土)～6 月 30 日(日)

(開館日数:31 日)

総入館者数 3,121 人(一日平均:101 人)



関連事業

美術講演会「文明開化に生きる三遊亭圓朝 ～鏑木清方とのかかわりとともに～」

【講師】須田努氏(明治大学教授) 【日時】6 月 3 日(月) 13:00～15:00

日本画ワークショップ「日本画材を使って、団扇に絵を描こう！」

【日時】6 月 16 日(日) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30

「鎌倉の紫陽花と美術館を巡ろう」

【日時】6 月 5 日(水)、8 日(土)、14 日(金) ①10:00～11:40 ②10:20～12:00

※15 日(土)は荒天のため中止

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】 前期:平成 31 年 4 月 6 日(土)～令和元年 10 月 5 日(土)

関連記事

「鎌倉市鏑木清方記念美術館「清方と江戸の粋 三遊亭圓朝とのかかわり」展」

(産経新聞 6 月 2 日)

「特別展「三遊亭圓朝 生誕 180 年記念 清方と江戸の粋—三遊亭圓朝とのかかわり—」開催中

鎌倉市 鏑木清方記念美術館(毎日新聞 6 月 14 日)

「画業の道後押し 鏑木清方の圓朝」(東京新聞 6 月 23 日)

他 15 件

出品作品 (*一部展示替えあり：前期 5/25～6/11 後期 6/12～6/30)

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
さじき	昭和 26 年 (1951)	絹本着色・額	74.2×92.7	歌舞伎座蔵
牡丹燈籠	昭和 2 年頃 (1927)	絹本着色・軸	26.5×23.8	個人蔵
矢根五郎	昭和 3 年 (1928)	紙本着色・軸	49.1×57.4	個人蔵
京橋金沢亭	昭和 10 年頃 (1935)	絹本着色・額	41.0×57.8	福富太郎コレクション 資料室蔵
豊原国周 「日千両 大江戸賑」*	慶応 4 年・ 明治元年 (1868)	木版錦絵		早稲田大学坪内博士 記念演劇博物館蔵
芝居噺 「伊勢音頭」*	不詳			同上
三題噺作者番付	不詳			同上
『三題・楽話／ 作者評判記』	文久 3 年 (1863)			同上
『粹興奇人伝』	文久 3 年(1863)			同上

【所蔵品】

「朝夕安居」「朝夕安居 詞書」「大蘇芳年」「新大橋之景」「道成寺」「太夫」「あじさい」「浅みどり」
「寺子屋画帖」
下絵 「三遊亭圓朝像」「新富町」「棧敷の客」「明治の女」
スケッチ 「三遊亭圓朝像のためのスケッチ」「小網町河岸」「目黒不動茶店」「王子稻荷境内弁天」
自筆資料 「写生たび日記」「野州旅日記 二」「武さし下野旅日記 一の巻 拾遺」よりスケッチ 6 点
『文藝俱樂部』口絵 「伽羅」「汐干狩」「白魚」「ひともし頃」
『苦樂』表紙絵下絵 「神田祭」「田舎源氏」
『新小説』口絵 「大鳥毛」「辨天小僧」(下絵)
『講談雑誌』口絵 「嬌音」「戀の湊」
村上浪六著作口絵 『最後の岡崎俊平(後編)』
渡邊霞亭著作口絵 『不破数右衛門(前編)』
松居松葉著作口絵 『一夜畫工』
古愚庵主人著作口絵 『ゆるさぬ関』
村井弦齋著作口絵 『日の出島 朝日の巻(下巻)』
その他口絵 「潮田主水有馬浴泉に遊ぶ」「藤娘」
「両国すみ屋絵葉書」袋原画 「條野採菊・大蘇芳年」(「こしかたの記」挿絵『中央公論』)
「東京 築地川」より 「築地橋」「作者」「亀井ばし」「佃島」(『集 東京と大阪』)
『圓朝全集』より 表紙装丁、見返し装丁、扉、「牛車」挿絵、「文七元結」大蘇芳年挿絵、
「怪談牡丹燈籠」歌川國峯挿絵、「怪談乳房榎」落合芳幾挿絵、
「指物名人長二」水野年方挿絵
清方意匠 「テーブルセンター あじさい」
書籍 『菊文様皿山奇談』(初上・下、二 上・下、三 下) 『錦乃舞衣』

企画展 「清方、若き日の歩み ～明治・大正の画業を中心に～」

清方は、『やまと新聞』の創刊者であり、様々な文化人と交流のある父・條野採菊の姿を間近に見ながら、自然と芝居や文芸、落語と親しむ幼少期を過ごした。13歳で水野年方に弟子入りした後、16歳で挿絵画家となり、人気挿絵画家となっていく中で、同志と「烏合会」を結成。肉筆画の技術向上を目的に、互いに作品を批評し、展覧会に出品するなど、会での活動は清方にとり、日本画家への足がかりとなった。

本展覧会では、清方の明治、大正の画業に焦点をあて、雑誌や単行本の口絵、烏合会出品作など、若き清方の歩みを紹介した。

会期

令和元年7月6日(土)～8月25日(日)
(開館日数:44日)

総入館者数 2,685人(一日平均:61人)



関連事業

子ども参加プログラム「日本画材を使って絵巻物を描こう！」

【日時】7月24日(水)、25日(木)、8月2日(金) 9:30～11:30

子ども参加プログラム「浮世絵の多色摺り技法を体験してみよう！」

【日時】7月26日(金)、8月1日(木) 9:30～11:30

「親子で美術館へ行ってみよう！」

【日時】7月31日(水) 9:30～11:30

「夏休み親子鑑賞」

【開催期間】7月6日(土)～8月25日(日)

「浴衣で楽しむ美術館」 浴衣での来館者に絵はがきをプレゼント

【開催期間】7月6日(土)～8月25日(日)

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】 前期:平成31年4月6日(土)～令和元年10月5日(土)

関連記事

「ミュージアム・ナビ 清方、若き日の歩み 鎌倉市鏑木清方記念美術館」

(神奈川新聞 7月12日)

「清方、若き日の歩み ―明治・大正の画業を中心に―」(毎日新聞 8月7日、15日)

「企画展 清方、若き日の歩み ―明治・大正の画業を中心に―」

(鎌倉みどころ散歩 8月) 他 14件

出品作品

「寒月」「先師の面影」「秋宵」「小楠公弁の内侍を救う」「水汲」「柳の下に涼む娘」「ゆかた」「砂浜少女」「教誨」
「夏の思い出(第1回)」「絵日記(里から町へ)」「絵日記(東京湾)」
「蓮」(『田中素水第33回忌記念画帖』の内)
「ひとつ契り」(『田中素水第37回忌祈念画帖』の内)
「美人舞之図」(肉筆回覧誌『美術くら遍一』の内)
「観世音菩薩」(肉筆回覧誌『美術くらべ 満記乃三』の内)
「道成寺」(肉筆回覧誌『研究画林 卷之壹』の内)
「博多小女郎波枕」(肉筆回覧誌『紫紅』の内)
水野年方作「橘逸勢女 日野阿新」

模写 「鷺娘」「道成寺」「三番叟」(喜多川歌麿「當世踊子揃」の内)

下絵 「五人女のおまん」「霽れゆく村雨」(小下絵)「築地川みちしほ」「氷店」「風鈴」

スケッチ 「竜胆」「睡蓮」「向日葵」「花オクラ・朝顔・露草」「朝顔」「鉄線」「白粉花」「薊」「桔梗・トンボ」
「凌霄花」「鯛」

『苦樂』表紙	「あまのがは」「湯の宿」「宇治の螢」「箱庭」
『文藝俱樂部』口絵	「ゆふ暮れ」「蚊遣の煙」「梅雨晴」(下絵・校合摺・完成品) 「涼風」(下絵・完成品)
『文藝俱樂部』表紙	「海風」
『講談雑誌』口絵	「盆提灯(清方畫譜の七)」
『婦人世界』口絵	「星多き夜」
『文藝界』口絵	「夕涼み」
『新小説』口絵	「空虚」
大沢天仙著作口絵	『善道邪道』
江見水蔭著作口絵	『海水浴』
絵はがき	「霽れゆく村雨」
清方意匠	うちわ「朝顔」「美人・のれん」「美人・日傘」、風呂敷「朝顔」、浴衣(紫陽花柄)

企画展 「清方と弟子たち ～受け継がれる美～」

優美で粋な独自の風俗美人画を確立した鏗木清方。その画塾には、多くの門下生が集い、大正4年(1915)に郷土会を結成、作品発表の場として展覧会を開いた。会の活動を通じて清方の美の精神を引き継いだ伊東深水、寺嶋紫明、山川秀峰らの弟子たちは大正から昭和にかけて活躍し、それぞれの道を切り拓いていった。

本展覧会では清方の美人画のほか、清方夫妻の結婚50周年を記念して弟子たちから贈られた寄せ描きや、家族とともに弟子たちの姿が描かれたスケッチなど、清方と弟子たちの交流と、受け継がれていった風俗美人画の美を紹介した。

会期

令和元年8月31日(土)～10月22日(火・祝)

(開館日数:43日)

総入館者数 2,511人(一日平均:58人)



関連事業

「鏗木清方誕生日記念！フルカラー図録プレゼント」【実施日】8月31日(土)、9月1日(日)

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】 前期:平成31年4月6日(土)～令和元年10月5日(土)

後期:令和元年10月12日(土)～令和2年3月21日(土)

「ミュージアムめぐり スタンプラリー 5館の学芸員によるトークセッション “リニューアル”」

【日時】10月5日(土) 17:00～19:00 【会場】鎌倉歴史文化交流館

「日本画制作実演」【日時】10月5日(土)～10月6日(日) 13:30～15:30

【講師】長谷川幾与氏(日本画家)

日本画ワークショップ「日本画材を使って円や扇型の画面に絵を描こう！」

【日時】9月21日(土) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30

日本画ワークショップ「日本画材を使って短冊に絵と詞を描こう！」

【日時】10月20日(日) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30

関連記事

「企画展「清方と弟子たち ～受け継がれる美～」(読売新聞 地方面 8月30日)

「清方と弟子たち 受け継がれる美」(朝日新聞 地方面 10月8日)

「小町通りのすぐそばで静かに鑑賞できる風俗美人画 鏗木清方記念美術館」

(ゆうゆう11月号 10月1日)

他17件

出品作品

「虫の音」「清流」「栗をむく娘」「清子四歳像」「ほゝづき」「落葉焚く」「笠の曲(娘道成寺)」「狐狗狸」「砧」
「風景(金沢・瀬戸)」「君ヶ崎漫筆(第2図)」「金沢絵日記 五(第3図)」「有卦自祝之絵」「菊慈童」
「秋草」(当館寄託)
弟子の寄描「五星連珠」

下絵 「瀧野川観楓」「紅雨荘(右隻)」「夏ざしき」「崔承喜(上半身)」「茶の間の秋」
「草双紙を読む女」

スケッチ 「巢鴨風景」「柿」「湖尻」「大磯」「髪」(2点)「女性」(4点)「柘榴」「柿もみぢ」
山川秀峰作「清方の制作風景スケッチ」

『講談雑誌』口絵 「九月の海(清方畫譜の九)」「旅愁(清方畫譜の十)」「秋のおとづれ」
伊東深水・画「春の宴(深水畫譜の一)」「微酔(深水畫譜の四)」
「秋の女(深水畫譜の十一)」「浴後」
寺島紫明・画「有明」「灯影」
西田青坡・画「栈敷」 山川秀峰作「宵」

『文藝俱樂部』口絵 「こほろぎ」「こすもす」「紅さす女」

『婦女界』口絵 「茶屋の二階」

『女性』口絵 「堀切(梅雨五題)」

『婦人世界』口絵 「散るいてふ」

『少女界』口絵 「観菊」

菊池幽芳著作口絵 『筆子 初枝の巻』『百合子(後編)』

渡邊霞亭著作口絵 『勝鬨(中編)』

小栗風葉著作口絵 『戀学生』

『主婦之友』付録 「月(明治風俗美人)」 伊東深水作「雪(大正風俗美人)」

山川秀峰作「花(昭和風俗美人)」

その他口絵 「秋ばれ」「かりがね」「微笑」「秋の旅」「ほゝづき」

その他 袖無し羽織(羽裏に弟子の寄描)

清方意匠菓子器 2点

特別展

「泉鏡花没後 80 年 清方と鏡花 ～ふたりで紡ぐ物語の世界～」

明治の半ば頃から、美しい文体による幻想的な名作を多く生み出した泉鏡花。清方は、挿絵画家となった 10 代の頃から鏡花の文学を愛読し、彼の作品に挿絵を描くことを目標に研鑽を重ねていた。明治 34 年(1901)に、鏡花の単行本『三枚續』の口絵や装丁を手がけることになり、遂に対面を果たすと、二人は旧知の仲のように打ち解け、公私にわたり親交を深めていった。その後二人は、「鏡花作、清方ぬがく」と扉に並び記されるほどの美しい本を世に送り出し、清方は、日本画家となってからも鏡花文学の世界を描き続けた。

本展覧会開催の秋に、泉鏡花の没後 80 年を迎えたことから、二人の深い関わりを示す作品を紹介した。

会期

令和元年 10 月 26 日(土)～12 月 1 日(日)
(開館日数:31 日)

総入館者数 3,182 人(一日平均:103 人)



関連事業

美術講演会「幻妖の美を求めて ～鏡花の文学、清方の絵画」

【日時】11 月 12 日(火) 13:30～15:30 【講師】東雅夫氏(アンソロジスト／文芸評論家)

「泉鏡花没後 80 年 川喜多映画記念館との特別連携イベント」

相互割引 【開催期間】10 月 26 日(土)～12 月 1 日(日)

「星あかり」朗読イベント+妙長寺見学ツアー

【日時】11 月 4 日(月・振) 13:00～15:30 【朗読】奈佐健臣氏(俳優)

2 館の学芸員による展示解説ツアー 【日時】10 月 27 日(日)、11 月 30 日(土) 13:00～14:30

「泉鏡花没後 80 年記念 109 シネマズ湘南、有隣堂テラスモール湘南店 タイアップ企画」

109 シネマズ湘南『天守物語』『日本橋』チケット半券提示で入館料 50 円割引

【開催期間】7 月 5 日(金)～12 月 1 日(日)

有隣堂テラスモール湘南店で泉鏡花フェア対象書籍購入の方に当館絵ハガキをプレゼント

【開催期間】6 月 28 日(金)～7 月 11 日(木)、8 月 16 日(金)～29 日(木)

日本画ワークショップ「胡粉を使って、日本画を描いてみよう！」

【日時】11 月 16 日(土) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30

「ヨガインストラクターと歩く 鎌倉美活ウォーク」【日時】12 月 1 日(日) 13:00～16:00

鎌倉市川喜多映画記念館、北鎌倉 葉祥明美術館との連携イベント

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】 後期:令和元年 10 月 12 日(土)～令和 2 年 3 月 21 日(土)

関連記事

「泉鏡花没後 80 年 特別展 清方と鏡花 ～ふたりで紡ぐ物語の世界～」

(毎日新聞 10 月 27 日、11 月 10 日)

「小説家・泉鏡花没後 80 年記念 ゆかりの鎌倉で二つの展覧会」(神奈川新聞 11 月 4 日) 他 20 件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
高野聖	明治 37 年 (1904)	絹本着色・屏風 (二曲一隻)	172.8×84.9	豊川閣妙厳寺 豊川稲荷蔵
不如帰	明治 38 年 (1905)	絹本着色・屏風 (六曲一隻のうち)	170.6×84.3	同上
行水(泉鏡花遺愛品)	不詳	絹本着色・軸	108.0×24.3	慶應義塾大学 三田メディアセンター蔵
『化鳥』直筆原稿 (題簽 鏑木清方)	明治 30 年頃 (1895)	原稿	23.8×16.1	同上
滝の白糸衣裳 (鏑木清方意匠/ 花柳章太郎使用)	不詳	絹地・着物	155.0×65.0	早稲田大学坪内博士 記念演劇博物館蔵

【所蔵品】

「深沙大王」「一葉女史の墓」「註文帖」「ふたつあちさゐ」「年増美人」「築地明石町の船・詞」

「雑司ヶ谷会式」

下絵 「築地明石町」「妓女像(左幅)」「高野聖(今様絵詞の会)」「小説家と挿絵画家」

スケッチ 「一葉女史の墓のためのスケッチ」「妓女像のためのスケッチ」(3 点)

「築地明石町のためのスケッチ」

『新小説』口絵 「舞の袖」「紅雪録」「胡蝶之曲」「楊柳歌」「瓔珞品」

『文藝俱樂部』挿絵 「深沙大王」(校正摺 2 点)

『苦楽』表紙 「紅梅屋敷」(下絵・書籍表紙) 「高野聖」(下絵・書籍表紙)

泉鏡花著作関連 『無憂樹』口絵 『枚續』(口絵下絵・口絵・表紙絵・袋装丁・書籍)

『風流線』(口絵・表紙絵) 『式部小路』(口絵・口絵差上げ)

『婦系図』(後編表紙装丁・再刊本表紙装丁(鱸崎英朋合作))

『高野聖』(復刻版表紙装丁) 『薄紅梅』(口絵下絵・口絵)

『昭和集』(箱・表紙装丁) 『鏡花選集』(箱・表紙装丁)

『鏡花全集』(表紙・見返し・扉装丁)

「芍薬の歌」(『現代長篇小説全集』口絵下絵・挿絵下絵)

「高野聖」(『現代名作集 別巻』口絵原画下絵・口絵原画)

その他 帯締「月にうさぎ」(鏡花遺愛品) 泉鏡花肖像写真(清方旧蔵)

手ぬぐい(鏡花普門品句)

企画展「清方、新春を寿ぐ」

昭和の初め、清方は正月を迎えると氏神への初詣や恵方詣、七福神詣をし、劇場へ新春芝居を見に行くなどして楽しんだ。ほかにも、弟子たちと新年会を開き、宝珠のかき初めをしたり、自らが描いた羽子板や弟子たちが持ち寄った式などを景品にして福引きをしたりもした。そして、家族や近い人々と和やかに過ごす古きよき正月の風情を、作品や雑誌の口絵に描いた。

本展覧会では、新春を寿ぐ人々や街の様子に取材した作品や口絵を、清方作品を意匠化した永井周山作・押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」とともに紹介した。

会期

令和元年 12月 6日(金)～令和 2年 1月 13日(月・祝)

(開館日数:29日)

総入館者数 2,854人(一日平均:98人)



関連事業

「特別展示:築地明石町・新富町・大川端 下絵 3点」

【期間】12月 6日(金)～12月 15日(日)

「新春福引」

【期間】1月 4日(土)～1月 13日(月・祝)

「日本画の美術館を巡ろう! 鏑木清方 山口蓬春」

【期間】令和 2年 1月 4日(土)～2月 29日(土)

山口蓬春記念館と相互割引やプレゼントを実施

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】 後期:令和元年 10月 12日(土)～令和 2年 3月 21日(土)

関連記事

「企画展「清方、新春を寿ぐ」(読売新聞 地方面 12月 13日)

「鏑木清方記念美術館」(朝日新聞 Family News 12月 10日)

「清方、新春を寿ぐ」(ARTAgenda)

他 16件

出品作品

12/15 までの展示 「築地明石町」(下絵) 「新富町」(下絵) 「大川端」(下絵)

12/17 からの展示 「舞妓」「歳旦」「雪空」「雪旦」(下絵) 「僧房春蘭(牡丹の寺)」

作品 「年始廻り」「春や昔」「松のうち」「白梅」(大正期) 「白梅」(昭和 45 年)
「鉢植の梅松(試筆)」

下絵 「木下川探梅」

スケッチ 「日光」「大川雪景色」「御殿場からの富士」「小槌・張子の犬」「三色スマレ」
「瑞泉寺の橙」「芸妓」

『婦人公論』口絵 「歌留多會の夜」

『文藝界』口絵 「都大路」

『婦人世界』口絵 「元日の朝」

『女學世界』口絵 「紅梅」

『大正婦人』口絵 「初東風」

『文藝俱樂部』口絵 「春を待つ」「餅むしろ」

『文藝俱樂部』附録 「軍国をんな雙六」「新案雙六當世二筋道」
鍋木清方・鯨崎英朋合作「松の内」

『新小説』口絵 「幕あひ」

『淑女畫報』口絵 「春の人」

『講談雜誌』口絵 「初夢(清方畫譜の一)」「炬燵(清方畫譜の十二)」

『少女界』附録 宮川春汀・鍋木清方合作「歴史雙六」

『少女界』口絵 「クリスマス」「爐邊の少女談話會」

『少年界』口絵 「昔と今の学生」

瀬戸半眠著作口絵 『家内安全』

橋本埋木庵著作表紙絵 『歌芳心中』

小栗風葉著作口絵 『旗すすき』『新かつら下地』

稲岡奴之助著作関連 『三人書生』(口絵) 『貴公子(前編)』(表紙絵)

村上浪六著作表紙絵 『武士道(後編)』『当世五人男のうち川上三吉』

その他口絵 「楽しき贈り物」「年始客」「暗香」

カレンダー 「風俗美人画(一)松の内」(『東京朝日新聞』付録)

「中井紙製品工業株式会社カレンダー」

風呂敷・ふくさ 「氷梅」「梅」「扇子に藤と松」「扇面に竹と梅」「扇面に松と飴や」

「風と梅」「張子の虎とキンカン」「扇子に橘」

押絵羽子板 永井周山作「明治風俗十二月月」「ためさるゝ日」

資料 「宝珠」「清方意匠年賀状」

企画展「物語に魅せられて ～清方の芝居絵を中心に～」

幼少の頃から芝居好きの両親と劇場に足を運んでいた清方は、長じて『歌舞伎新報』を愛読するようになり、曲亭馬琴の「南総里見八犬伝」に夢中になるなど、芝居と戯作をこよなく愛する日々を送った。やがて父の紹介で知り合った岡鬼太郎ら劇作家らに関わる『東北新聞』や雑誌『歌舞伎』に挿絵画家として推薦されることで、挿絵画家として本格的に歩み始めることになった。日本画家に転身してからも芝居や文学に好んで取材し、生まれた数々の作品は、質、量ともに高く評価され、清方芸術を大きく特徴づけている。本展覧会では、芝居絵を中心に文学に関する作品もあわせて紹介した。

会期

令和2年1月17日(金)～2月25日(火) (開館日数: 35日)



総入館者数 2,831人(一日平均:81人)

関連事業

「日本画の美術館を巡ろう! 鏑木清方 山口蓬春」

【期間】令和2年1月4日(土)～2月29日(土)

山口蓬春記念館と相互割引やプレゼントを実施

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】 後期:令和元年10月12日(土)～令和2年3月21日(土)

関連記事

「鎌倉市鏑木清方記念美術館で「物語に魅せられて ～清方の芝居絵を中心に～」展が2月25日まで開催中」

(婦人画報ウェブサイト)

「清方の芝居絵展@鎌倉」(朝日新聞1月8日)

「企画展「物語に魅せられて～清方の芝居絵を中心に～」 鎌倉市鏑木清方記念美術館」(毎日新聞1月15日)

他13件

出品作品

- 「金色夜叉の絵看板」「慶喜恭順」「梅蘭芳 天女散華」「絵燈籠」(初代中村吉右衛門・
鏑木清方合作)「寺子屋画帖」「道成寺」「姉様人形」「早見の藤太」「崔承喜 一」
「崔承喜 二」「女役者条八」「金沢絵日記(第16回)」
下絵 「女歌舞伎」「道行浮埒鷗」「崔承喜(全身)」「明治の女」「女役者条八」(2点)
「お夏清十郎物語(第4回)」
- 『清方美人畫譜』 「幕間」
『東京 築地川』 「組立燈籠」「築地橋」
『演藝俱樂部』口絵 「茶屋の二階」
『文藝俱樂部』口絵 「小春」
『演藝畫報』口絵 「對牛樓の旦開野」
『講談世界』口絵 「千代田の大奥」
『新演藝』口絵 「濡衣(芝居十二ヶ月)」「戻橋の小百合(芝居十二ヶ月の内)」
「額の小さん(芝居十二ヶ月の中)」
- 『新家庭』口絵 「小説のヒロイン「乳姉妹の君江」」
「小説のヒロイン「渦巻の君子」」
- 『婦人俱樂部』口絵 「鳴沢宮の像」
菊池幽芳著作口絵 『お夏文代(前編)』『売花娘』『百合子(後編)』
渡邊霞亭著作口絵 『渦巻(上編)』『渦巻(中編)』
坪内逍遙著作口絵 「お夏狂乱」(『新曲金毛狐』)
尾崎紅葉著作関連 『金色夜叉 続編』(口絵・校合摺)
尾崎紅葉原著『金色夜叉絵巻』(第105回挿絵)
- 山岸荷葉著作関連 『反魂記』(表紙装丁・口絵)
「夢裏の雛妓」(「紅筆」『新著月刊』口絵)
- 『歌舞伎』関連 「おもかげ帖(其一～其十一)」「七代目岩井半四郎」(挿絵)
「白拍子の振袖と道成寺の釣鐘」(表紙絵)
「英獅子」(表紙絵・校正摺)
「兼房小紋に蘆と鷺」(表紙絵・校正摺)
「伊左衛門の紙衣と編笠」(表紙絵・校正摺)
「男之助の隈取と仁木の上下」(表紙絵・校正摺)
- その他 「写生帖 松島の巻 舟の中」「お蝶夫人」(口絵下絵)
- 書籍 『江戸名所図会(第壹巻)』『尾崎紅葉全集』『歌舞伎新報』

企画展 「清方の挿絵と装丁 ～華麗なる木版画の世界～」

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月28日より臨時休館。

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」などイベントも中止。